



サウジ原油、2カ月連続下げ 6月積み

日本の石油会社が長期契約で輸入するサウジアラビア産原油の価格が2カ月連続で下落した。代表油種「アラビアンライト」の6月積み価格は1バレルあたり77.43ドルと、5月積みに比べ0.30ドル（0.4%）安い。中国をはじめとした世界的な景気の先行き不安で需要が伸び悩むとの見方がくすぶっている。

日本が長期契約で輸入する原油は直接取引（ダイレクト・ディール=DD）原油と呼ばれる。価格はアジア指標であるドバイ原油とオマーン原油の平均価格に調整金を加減し、毎月見直している。6月のドバイ・オマーン原油の平均価格は75ドル近辺と5月から0.1%上昇したものの、調整金を引き下げたことが影響した。

最も下落幅が大きかったのは重質油の「ヘビー」で、0.95ドル（1.2%）下げた。重質油は中国の需要が大きいとされるが、中国国家统计局による製造業購買担当者景況指数（PMI）が6月まで3カ月連続で好不況の節目の50を下回るなど、景気回復の息切れ感が強まっている。

サウジなど産油国でつくる石油輸出国機構（OPEC）と非加盟のロシアなどが加わるOPECプラスは6月初旬、協調減産を2024年まで延長することを決め、サウジも独自で7月に日量100万バレルの自主減産を実施すると打ち出した。しかし供給減より需要の弱さが意識されており「中国をはじめとした需要国の引き合いが大きく増えない限り上値の重い展開が続く」（日本総合研究所の松田健太郎副主任研究員）との見方が多い。



サウジ原油減産、来月も100万バレル

サウジアラビアは3日、7月に始めた日量100万バレルの原油の自主減産を8月も続けると表明した。国営通信がエネルギー省関係者の話として伝えた。ロシアも同日、8月に50万バレル減産すると発表した。そろって原油価格を下支えする姿勢を改めて示した。

サウジは6月、石油輸出国機構（OPEC）とロシアなど非加盟の主要産油国でつくる「OPECプラス」の協調減産と別に、7月に独自に100万バレルを追加減産すると表明し、延長もありうるとしていた。国営通信は3日、9月以降も追加減産を続ける可能性があるとした。

ロシアのノワク副首相は3日の声明で、市場均衡のためとして8月の輸出を日量50万バレル減らすと表明した。サウジと合わせた減産幅の日量150万バレルは、世界需要の約1.5%に当たる。国際指標の北海ブレント原油先物は3日、一時1バレル76ドル台と前週末比2%上昇した。

OPECプラスは6月の閣僚級会合で相場下支え策を打ち出したが、原油価格は上値の重い展開が続いている。



三菱商事、廃棄コンクリ由来建設資材製造の新興に出資

三菱商事はコンクリート由来の廃棄物を使い建設資材を製造販売する、スタートアップ企業のタケ・サイト（静岡市）に出資した。出資額は数千万円とみられる。製品は産業廃棄物から作られるため建設時の二酸化炭素（CO2）排出量を低減できる。商社のネットワークを生かして建設業界向けに販路を拡大するほか、樹脂添加剤など新たな用途開発で連携する。

タケ・サイトは生コンクリート工場で発生する産業廃棄物「生コンスラッジ（汚泥）」を使って、大気中のCO2を固定する微粉末を生産する技術を持つ。この微粉末を使い、建設現場で生コンを圧力をかけて型枠に流し込む際に必要な管の詰まりを防ぐ潤滑剤「ルブリ」を展開している。

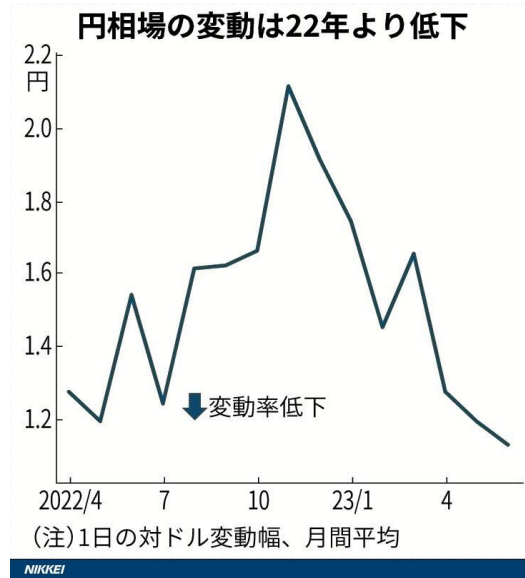
ルブリはこれまで潤滑剤として使われていたモルタルに比べて使用量を98%削減でき、建設現場で発生するCO2の大幅削減につながる。産業廃棄物も減らせるため、大手ゼネコンなどで採用が相次いでいる。

三菱商事は出資を通じ、ルブリの生産拡大に向けた支援をする。今後は微粉末を低炭素コンクリート用の混和剤などに加え、樹脂添加剤などルブリ以外の新たな用途開発を進める。



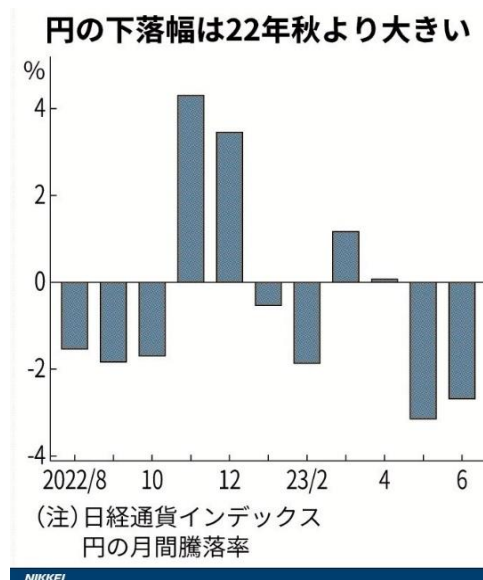
円安、介入へ薄い警戒感

政府・日銀の円安けん制に対する警戒が薄れている。円相場は8カ月ぶりの円安水準で推移する中、市場では2022年秋ほど介入への警戒が高まっていない。円の変動が22年より小さく、政府は介入の大義名分ができないとの見方があるためだ。一方、ユーロやポンドなどドル以外の通貨に対して大幅な円安が進んでおり、市場は政府・日銀の本気度を探っている。



3日発表の6月の米サプライマネジメント協会（ISM）製造業景況感指数が市場予想を下回ると、円相場は一時1ドル=144円ちょうどまで円高・ドル安が進行した。しかしその後は円安の流れが再開し、1時間程度で144円台半ばを回復。「日米金利差がもたらす円安圧力の強さを印象づけた」（みずほ銀行の南英明調査役）

22年11月以来の円安水準が続く中、政府によるけん制発言も相次ぐ。神田真人財務官は4日、「米国を含め各国の当局とは日ごろからほぼ毎日、為替、金融にかぎらず様々な意見交換や意思疎通を図っている」と述べた。





2023年 7 月 5 日 担当 ジョン

22年の3回にも及ぶ円買い介入の記憶は新しいものの、外国為替市場では意外にも介入に対する警戒感は薄い。邦銀の為替ディーラーは「為替介入や政府の口先介入を意識した取引は全く盛り上がっていない」と話す。22年の秋は為替介入による円高を警戒し144円90銭など節目手前でのドル売り・円買い注文が並んでいた。足元では介入の水準を意識した取引が増えていないという。

背景にあるのは円相場の変動が小さくなっていることだ。ドルに対する1日の円の値幅をみると、6月の平均は1.1円程度で22年と比較して縮小傾向にある。22年9～10月は1.6円を超えており、1日で2円以上変動する日も目立った。

通貨オプション市場の予想変動率（インプライドボラティリティー）も1カ月物が10%台で推移しており、22年秋の13～14%程度から低下。足元の円安水準が比較的安定して続くと市場はみる。

政府は為替介入の理由として「為替相場の過度な変動を抑制するため」としている。22年9月の介入後の会見で神田財務官は「水準を考えたことは全くない。ボラティリティーだ」と強調した。足元の為替市場の変動が低下している中で、政府・日銀が為替介入に踏み切るのは難しいとの見方が広がっている。

もっとも円の弱さが深刻になりつつある。通貨の総合的な強さを示す日経通貨インデックスベースでは円の騰落率が5月は3.2%、6月が2.7%と大幅な下落となった。1ドル=151円台まで円が下落した22年10月（1.7%の下落）より大きい。

欧州の中銀が利上げを継続する姿勢を示しており、対ユーロでは約15年ぶり、対ポンドでは約7年半ぶりの円安水準で推移する。ドルの独歩高となった22年と異なり、足元では幅広い通貨に対して円が下落している状況だ。同じ1ドル=145円でも昨年と比べて円の弱さが深刻度を増しているともいえる。

三菱UFJ銀行の井野鉄兵チーフアナリストは「145円を超えて円安が進めば、政府のけん制トーンが一段と強まる可能性がある」と指摘する。市場の警戒感が薄れているだけに、政府のけん制トーンが強まれば、思わぬ円高が進む可能性をはらんでいる。



物流拠点で太陽光発電

セイノーホールディングス（HD）傘下の西濃運輸は、物流拠点で太陽光発電を自家消費用に導入する。電力会社などと契約して初期費用なしで太陽光発電を導入できる「PPA（電力購入契約）」を活用。まず今夏に2支店で取り入れ、いずれも消費電力の3割程度を太陽光で賄えるようにする。2023年度内に約10拠点到に広げ、高騰する電力代を抑える。

新規に太陽光パネルの設置が可能な倉庫などでPPAを導入する。まず成田支店（千葉県成田市）に960枚、神明支店（神戸市）に884枚のパネルを設置。今夏をめどに発電を始める。

補助金を加味した電力代は3月時点と比べ、2支店で年間約740万円の削減につながると試算。合計で約1070トンだった二酸化炭素（CO2）排出量も約730トンに減らせるという。新築や改修をした8支店でも、構造計算上の問題がなければ23年度中に太陽光発電を導入する。8拠点合計でCO2排出26%減を見込む。

同社はターミナル一体型の倉庫を増やし、保管や加工、輸送を荷主から一括受託するロジスティクス事業に力を入れている。倉庫に入居する欧米系の企業ではグリーン電力活用の有無を契約時に重視するケースもあり、再生可能エネルギーの活用を営業にも生かす。



週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替(▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	5/23～5/29	75.87	1.38	140.46	2.20	67.02	2.25
	5/30～6/5	73.20	▲2.67	140.68	0.22	64.77	▲2.25
	6/6～6/12	74.94	1.74	140.54	▲0.14	66.24	1.47
	6/13～6/19	74.20	▲0.74	141.49	0.95	66.03	▲0.21
	6/20～6/26	75.78	1.58	143.50	2.01	68.39	2.36
	6/27～7/3	74.76	▲1.02	145.27	1.77	68.30	▲0.09
水曜日～ 火曜日	5/24～5/30	76.13	1.59	140.82	2.08	67.43	2.39
	5/31～6/6	73.01	▲3.12	140.55	▲0.27	64.54	▲2.89
	6/7～6/13	74.63	1.62	140.56	0.01	65.97	1.43
	6/14～6/20	74.91	0.28	142.00	1.44	66.90	0.93
	6/21～6/27	75.51	0.60	143.78	1.78	68.28	1.38
	6/28～7/4	74.73	▲0.78	145.46	1.68	68.37	0.09

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSレート